



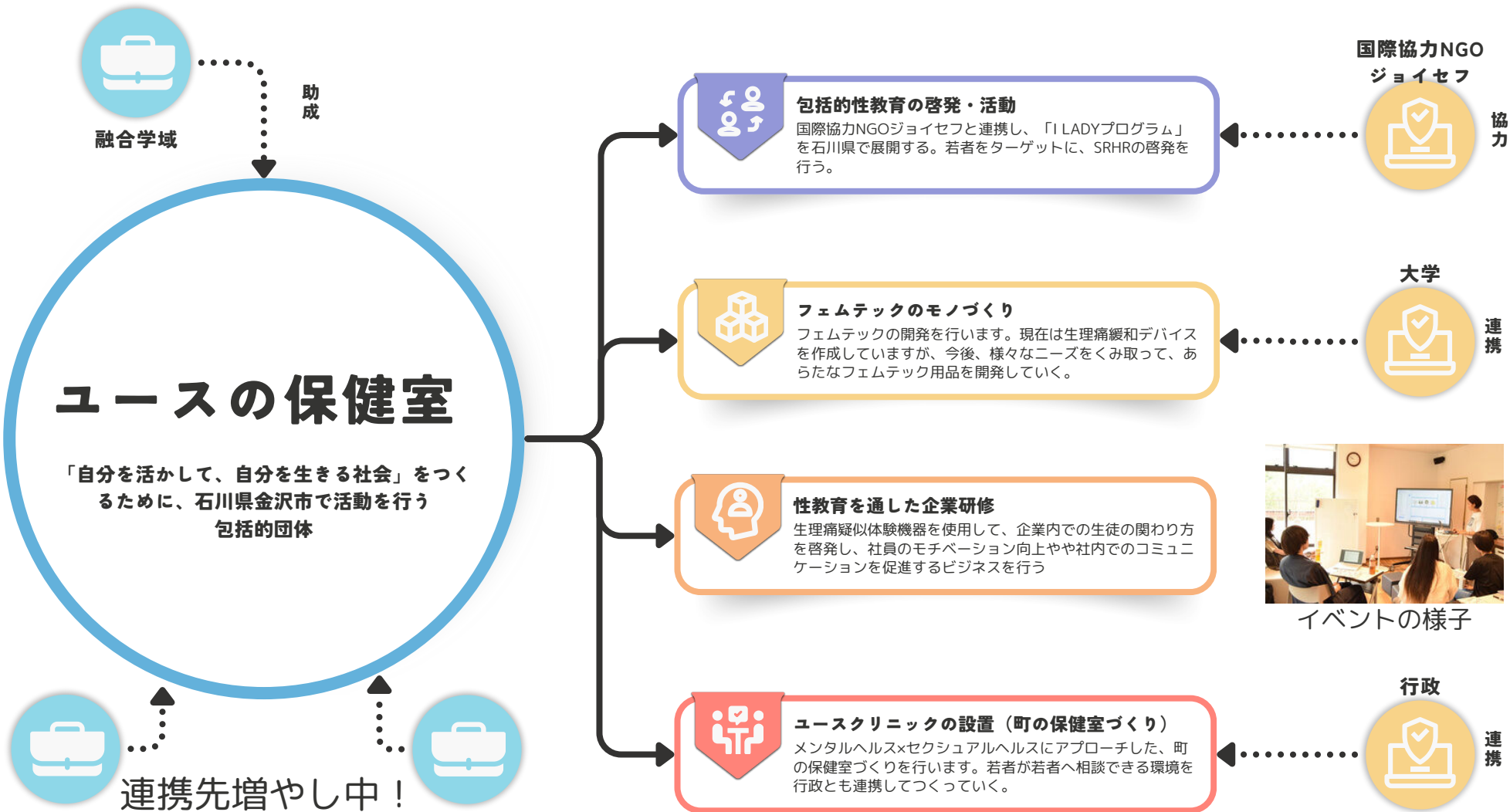
ユースの保健室

2024年6月16日
小田波優矢

知る・触れる「SRHR」 ～生理痛疑似体験を通じた対話イベント～

...

令和6年度協働のまちづくりチャレンジ事業



ユースの保健室

「自分を活かして、自分を生きる社会」をつくるために、石川県金沢市で活動を行う
包括的団体

包括的性教育の啓発・活動
国際協力NGOジョイセフと連携し、「I LADYプログラム」を石川県で展開する。若者をターゲットに、SRHRの啓発を行う。

国際協力NGO
ジョイセフ
協力

フェムテックのモノづくり
フェムテックの開発を行います。現在は生理痛緩和デバイスを作成していますが、今後、様々なニーズをくみ取って、あらたなフェムテック用品を開発していく。

大学
連携

性教育を通した企業研修
生理痛疑似体験機器を使用して、企業内での生徒の関わり方を啓発し、社員のモチベーション向上やや社内でのコミュニケーションを促進するビジネスを行う



イベントの様子

ユースクリニックの設置（町の保健室づくり）
メンタルヘルス×セクシュアルヘルスにアプローチした、町の保健室づくりを行います。若者が若者へ相談できる環境を行政とも連携してつくっていく。

行政
連携

- ・金沢大学「ふむふむフェムテックプロジェクト」に参画し、展示会スタッフを務める
- ・ユースセンター金沢 ジュウバコに生理用品を寄付
- ・生理について学ぶ勉強会兼イベントを実施
- ・5/11.12に国際協力NGOジョイセフと連携でイベントを実施

背景・課題

金沢市の未来共創計画、基本方針2「暮らしづくり」の(2)

- ・ 人と人・人と社会がつながり支え合う地域福祉の推進
- ・ 年齢や性別、障害の有無、国籍などに関わりなく多様性を認め合う共生社会の実現

今回のチャレンジ事業

まずは、包括的性教育の中でもすべての人が生涯の暮らしにおいて関係しており、男女共同参画や女性の活躍を推進のキーになる「生理」や「コミュニケーション」にフォーカスを当て、この事業を協働で行う

我々が考える金沢市の未来共創計画に必要なこと

生理課題や包括的性教育が浸透し、誰もが自分の心身の健康に意識を向けており、性別や年齢、生理痛の度合い、不妊治療者など関係なく、相互理解のために包括的性教育に関する対話ができ、相互に多様性を認めることができる

現状の課題

金沢市では、周囲で生理や包括的性教育について相互に対話したり、理解しようとする取り組みやきっかけが少ない

1. 包括的性教育を学ぶ機会が少ない

2. 包括的性教育の中で日常に関する生理についてもまだまだ理解不足な状況

現状の課題

金沢市では、周囲で生理や包括的性教育について相互に対話したり、理解しようとする取り組みやきっかけが不足している

1. 包括的性教育を学ぶ機会が少ない

- 教育現場における男女共同参画推進についての考え方は、「性教育を通じて、互いに相手を思いやる気持ちを持つことができるようにする」に約30%のニーズがあり、市としても今後の課題である（※1）
- 学校教育においても子どもたちがジェンダーの視点を持つことができるよう男女平等教育の推進が求められている
- 包括的性教育とは、生理などの身体的な話だけでなく、SRHR、社会的な規範の是非、差別や暴力、ジェンダーの不平等をなくす方法、性を安全に楽しむ権利、リスクに直面したときにアクセスできる方法、健康、相手とのコミュニケーションなど、幅広いテーマ
- これだけの幅広いテーマを学ぶには、機会が不足しているので、市民や行政が協働してこの活動をしなければいけない

2. 包括的性教育の中で日常に関する生理についてもまだまだ理解不足な状況

- 「生理の貧困」が国の課題としてある（※2）
- この課題の原因として、「生理」に対する理解が不足しているという可能性
- 男女ともに、生理に対する様々な知識が必要であるという現状がありながらも、これを主体的に学ぶ場は少ない（※3）
- 生理の貧困への具体的な解決策やアプローチは出てきづらい状況
- 金沢市男女共同参画に関する市民意識調査のなかに、生理というワードが出てこない（※4）
- 金沢で男女共同参画社会・暮らしづくりを進めるのであれば、生理の課題もフォーカスを与えるべき
- この課題は日常生活だけでなく、職場でも当てはまる
- 国の生理休暇の取得率は0.9%
- 職場においても、まだまだ生理への理解が不足している

生理痛体験パッドを用いたコミュニケーションプログラム

プログラムの特徴

すべての人が生涯の暮らしにおいて関係していて、
男女共同参画や女性の活躍を推進のキーになる
「生理」や「コミュニケーション」

- 生理や生理課題を自分ごととして捉えることができる
- 体験を通して、他者視点を培うことができ、今後の思考の幅が広がる

他者視点を培い
自分ごとになる
体験

相互の理解と
気づきを深める
対話

- 気づきを言語化・共有することで相互理解の促進ができる
- 一人では考えてもみなかった新たな気づきや多視点からの学びを得ることができる

事業内容

日程：10/26

場所：金沢市内

対象：金沢市民 20人前後（多様な視点から対話するための最適人数）
（企業の人事担当・大学生・自治体など）

目的：日常生活および職場における生理への理解不足とそれに伴う課題
に対して、

- ①生理について知識をインプット、生理痛を体験し
- ②体験による気づきの共有を行うことで
- ③当事者に対して、どのような理解や支援が必要であるかのアイデアを対話によって生み出す。

事業詳細とスケジュール

目的

生理を知る

内容 生理や生理課題に関するインプット、生理痛体験を行うことで自分ごととして生理や生理課題への理解を深める

・社会的・組織的・個人的な視点から見る生理や生理課題について知識を学び、実体験を共有し、インプットを行う

・生理痛体験パッドを一人ずつ装着し、生理痛を体験する

12:40~13:00 開場・受付
13:00~13:10 イントロダクション
13:10~13:30 インプット
13:30~14:10 生理痛体験

2

気づきの共有対話

目的

体験による気づきを共有し、多視点から生理や生理課題への理解を深める

内容

フューチャーセッション*という対話手法を用い、参加者が生理痛体験の気づきを共有する

時間

14:10~14:40 グループ対話
 ○ 気づきの共有
 ○ 15分×2回
 14:40~15:10 グループ対話
 ○ 気づきからやりたい姿を抽出する
 ○ 15分×2回
 15:10~15:20 個人ワーク
 ○ やりたい姿を一人1つ書き出す
 15:20~15:35 グループ形成・休憩

3

アイデア創出

目的

②より多視点から生理や生理課題について理解した上で、当事者に対してどのような理解や支援が必要であるか対話によって生み出す

内容

フューチャーセッション*という対話手法を用い、生理や生理課題に対する理解や支援について、今後社内で主体的に取り組むことができるアクションを生み出す

時間

15:35~16:10 アイデアを考える
 ○ ありたい姿を実現するためのアイデア
 16:10~16:20 全体発表
 16:20~16:30 クロージング
 ○ まとめ・写真撮影

事業の展開

- 金沢市内の企業や団体の協力を得ながら、継続的に生理について話すことができる、受け入れられる場を作る
- 継続的な取り組みを通して、我々のイベントで声やニーズを明らかにし政策提言を行うなど、ゆくゆくは行政との協働にも可能であれば繋げたい
- 企業、行政、市民、外部専門家とコミュニケーションをとりながら、金沢市の生理や生理課題について取り組める体制を目指しており、まずは第一歩目として金沢市内の企業や既存の金沢市の団体と連携し、包括的性教育の取り組みを実施していく

イベントの同時開催

生理痛体験機器を使った対話型イベントと同時に、「町の保健室」イベントも同時開催します。

【概要】

日程：10/26

場所：金沢市内

対象：12~25歳までの若者を中心とした、金沢市民全員

目的：生理をメインとしたSRHRについて知ってもらい、若者が気軽に悩みを相談できる「ユースクリニック（町の保健室）」づくりのきっかけとするため。

内容：1．フェムテック用品の展示会（株式会社fermata様より貸出予定）
2．様々な生理用品や避妊具の展示会（生理用品や避妊具を扱う企業にお声が掛け）
3．町の保健室事業

- ・看護学生を中心とした、若者が相談を聞き、悩みを対処するための選択肢を提案する
- ・SRHRノートを使って、参加者の性についての価値観を深める

その他イベント予定

①街の保健室/ユースクリニックの実施

若者が性の悩みを相談しやすいような居場所をイベントとして設置します。

ここでは、生理用品や避妊具の無償提供も行い、若者のヘルスリテラシーを推進します。

スタッフとして、看護師や心理士の資格を持つスタッフを配置し、来やすい空間、安心できる居場所を提供します。

②SRHRノートを活かした性教育の啓発イベント

国際協力NGOジョイセフが作成したSRHRノートをもとに「包括的性教育・SRHRとは何か」の啓発を中心とした、イベントを開催します。









このイベントは、国際協力NGOジョイセフが認めるピアアクティビストのみが行うことができます。

③コミュニティ内でのイベント

イベントによってできたコミュニティ内で、更なる包括的性教育のイベントの計画します。

その後、それぞれが連携して活動を行い、より包括的性教育への活動が活発化されます。

事業計画と年間スケジュール

スケジュール	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
企画内容BU									
広報									
ヒアリング・インタビュー									
イベント									

事業により期待される効果

効果	短期的	中期的	長期的
事業全体	生理やその課題に対して理解を促進する	日常的に生理について知る場が設けられ、対話する場が増える	<ul style="list-style-type: none">・ 生理というワードがタブーでなくなる・ ユースクリニックの取り組みの開始・ 望まぬ妊娠や、自分の体への悩みが少なくなる
	調査されていない、金沢市内の生理に関する声が拾い上げられる		
参加者A層	イベントをきっかけに今後協力できる関係性の構築	主体的に協力をしながら活動をスモールスタートで始める	生理課題に対して市内で持続的に取り組みを行っている
参加者B層	包括的性教育の重要性を知る	包括的性教育への意識が向上し、積極的に情報収集を行う	市内で行われる生理課題に関するイベントへ自主的に参加する

事業予算表

科目	金額	内訳など
謝金	¥10,220	外部講師とは連携済
備品購入費	¥4,000	イベントのための付箋/模造紙
材料費	¥32,000	生理痛体験機器作成
交通費	¥39,680	講師の交通費/打ち合わせのための交通費9920×4
印刷製本費	¥6,900	イベントの実施報告書(4235)/ イベントの事前チラシ(2464)
使用料及び賃借料	¥5,000	展示用のフェムテック用品のレンタル代
消耗品費	2200	①爽健美茶2LPET×8本（1,231円）②除菌 ウェットティッシュ60枚入×10個（973円）
計	¥100,000	